

令和4年度 事業報告（概要版）

（法人本部）

1. 法 人 本 部	P 1
------------	-----

（高齢者福祉事業）

1. 特別養護老人ホームおおすか苑（従来型） （おおすか苑ショートステイ含む）	P 2
2. 特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型）	P 3
3. おおすか苑デイサービスセンターほほえみ	P 4
4. おおすか苑居宅介護支援事業	P 5
5. 掛川市南部大須賀地域包括支援センター	P 6
6. 山崎デイサービスセンター	P 7
7. 小規模多機能型居宅介護よりみち	P 8
8. グループホーム野楽里	P 9

（児童福祉事業）

1. よこすかぬく森こども園	P 10
2. おおぶちそよ風こども園	P 11

法人本部

1. 理事会・評議員会などの開催について

- ・定時評議員会（令和4年6月17日開催 評議員7名・理事2名・監事1名出席）
 - （1）令和3年度 計算書類及び財産目録の承認について
 - （2）理事の選任について
 - （3）定款変更について
- ・第1回理事会（令和4年6月2日開催 理事4名・監事2名出席）
 - （1）令和3年度 事業報告の審議承認について
 - （2）令和3年度 計算書類等の審議承認について
 - （3）定時評議員会の招集について
 - （4）理事候補者の推薦について
 - （5）諸規程の一部改正について ①就業規則 ②給与規程
 - （6）定款変更について
- ・第2回理事会（令和4年7月12日開催 理事6名・監事2名出席）
 - （1）令和4年度 一般会計第1次補正予算（案）審議承認について
 - （2）特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型）空調設備更新にかかる借入について
 - （3）苦情解決要綱の一部改正について
- ・第3回理事会（令和4年9月22日開催 理事5名・監事2名出席）
 - （1）令和4年度 一般会計第2次補正予算（案）審議承認について
 - （2）特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型）空調設備更新工事業者選定について
 - （3）給食業務委託業者選定について
 - （4）介護保険事業 運営規程の一部改正について
 - （5）諸規程の一部改正について ①就業規則 ②給与規程（高齢者福祉部） ③臨時職員給与規程
- ・第4回理事会（令和4年12月1日開催 理事5名・監事1名出席）
 - （1）令和4年度 一般会計第3次補正予算（案）審議承認について
- ・第5回理事会（令和5年1月26日開催 理事4名・監事2名出席）
 - （1）令和4年度 一般会計第4次補正予算（案）審議承認について
- ・第6回理事会（令和5年3月9日開催 理事5名・監事2名出席）
 - （1）令和4年度 一般会計第5次補正予算（案）審議承認について
 - （2）令和5年度 経営方針並びに各事業計画（案）審議承認について
 - （3）令和5年度 一般会計予算（案）審議承認について
 - （4）令和5年度 資金運用計画の承認について
 - （5）給与規程の一部改正について
 - （6）給食業務委託業者選定について

2. 監査等の実施

- ・令和4年5月19日 法人監事による令和3年度事業報告及び決算監査を施行
- ・令和4年11月15日 法人監事による令和4年度上半期事業報告及び仮決算監査を施行
- ・令和4年11月8日 掛川市による介護予防支援実地指導（包括支援センター）改善報告 R5.1月提出
- ・令和5年1月25日 掛川市による特定教育・保育施設等指導監査（おおぶちそよ風こども園）

3. 登記関係

- ・目的等の変更登記 令和4年4月7日登記 第二種社会福祉事業 保育所の経営 削除
- ・資産の変更登記 令和4年6月20日登記 （33億922万8749円）

4. 定款変更

- ・令和4年7月4日認可
別表 建物・土地 摘要欄 おおぶち保育園 → おおぶちそよ風こども園に事業所名変更

令和4年度 事業報告（概要版）

特別養護老人ホームおおすか苑（従来型）

おおすか苑ショートステイ

1. 特養（従来型）入居者の状況

- (1) 利用状況：利用者数は延べ17,796名であり、昨年度の延べ17,879名に比較し、83名減少した。稼働率は、昨年度の98.0%に対し、今年度は、97.5%であった。
- (2) 入・退所状況：退所24名、入所24名の計48名の異動があった。退所理由は、死亡が18名、医療機関・療養型施設への転院が3名、老健施設施設への転所が2名、在宅へ1名。入所経路は、自宅から11名、老健施設から6名、療養型施設から5名、グループホームから1名、医療機関から1名。

2. ショートステイ利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
利用者計(人数)	309	377	467	378	402	389	422	332	389	328	295	309	4,397
1日平均利用者数	10.3	12.2	15.6	12.2	13.0	13.0	13.6	11.1	12.5	10.6	10.5	10.0	12.0
稼働率	51.5%	60.8%	77.8%	61.0%	64.8%	64.8%	68.1%	55.3%	62.7%	52.9%	52.7%	49.8%	60.2%

3. 特養（従来型）入居者の健康管理

令和4年度に入院治療を受けた者は13人。総入院日数は295日であった。昨年度と比べると、総入院日数は126日増加した。

4. 特養（従来型）優先入所

令和5年3月31日現在の入所申込者は51名で、昨年度末と比較し1名減少した。

保険者別の状況は以下のとおりである。

保険者	掛川市	菊川市	御前崎市	富士市	合計
待機者数	45	3	2	1	51

5. 防災活動

1) 防災訓練の実施状況

職員数の少ない夜間想定避難訓練を重点として毎月の訓練を実施した。

2) 自主点検の実施

「火気取締責任者の担当区域及び業務分担表」に基づき防災点検を実施した。

6. 職員研修・会議

- (1) 内部研修：専門職としてのケアを行う上での倫理の確立、介護サービスの質の向上、多職種連携を目指し内部研修を10件開催した。延べ156名の職員が参加した。
- (2) 外部研修：今年度は8件の外部研修に延べ13名が参加した。

7. 地域との交流

[ボランティアの受け入れ]

(1) ボランティア提供者

地域の方々には草取りや清掃を提供していただいたが、地域の小中学生の介護体験また芸能慰問といったボランティア活動は新型コロナウイルス感染防止対策のため受け入れを中止した。

(2) 定期来苑ボランティア

こでまりの会のシーツ交換、アンダンテのハーモニカ演奏の2団体の定期来苑も中止した。

令和4年度 事業報告（概要版）

特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型）

1. 利用状況

（1）利用状況：利用者数は延べ10,845名であり、昨年度の延べ10,899名に比較し、54名減少した。稼働率は、昨年度99.5%に対し、今年度は99.0%であった。

（2）入・退所状況：退所8名、入所8名の移動があった。退所理由は、死亡が7名、療養型施設へ転院が1名。入所経路は、自宅から3名、老健施設から1名、療養型施設から1名、グループホームから2名、住宅型有料老人ホームから1名。

2. 入居者の健康管理

入院治療を受けた者は1名。総入院日数は15日であった。昨年度と比べると、総入院日数は3日増加した。

「令和5年3月31日現在の重度の医療的介護」の状況は次のとおり。

人数	状況の内訳（重複有）						寝たきり人数
1	入院中	点滴	酸素吸入	カテーテル	経管栄養	吸引	5
	0	0	0	1	1	1	

3. 優先入所

令和5年3月31日現在の入所申込者は23名で、昨年度末と比較し2名の減少した。

保険者別の状況は以下のとおりである。

保険者	掛川市	その他	合計
待機者数	23	0	23

4. 防災活動

（1）防災訓練の実施状況

職員数の少ない夜間想定避難訓練を重点として毎月の訓練を実施した。

（2）自主点検の実施

「火気取締責任者の担当区域及び業務分担表」に基づき防災点検を実施した。

5. 職員研修・会議

（1）内部研修

専門職としてのケアを行う上での倫理の確立、介護サービスの質の向上、多職種連携を目指し、内部研修を年間10件 延べ156名の出席で開催した。

（2）外部研修

今年度は8件の研修に延13名の職員が参加した。

6. 地域との交流

（1）ボランティア提供者

地域の方々には草取りや清掃を提供していただいたが、地域の小中学生の介護体験また芸能慰問といったボランティア活動は新型コロナウイルス感染防止対策のため受け入れを中止した

（2）定期来苑ボランティア

こでまりの会のシーツ交換、アンダンテのハーモニカ演奏の2団体の定期来苑も中止した。

デイサービスセンターほほえみ

1. 利用状況（重点目標への取り組み、評価）

重点目標①『1日平均利用者数18名以上、新規利用者獲得を図る』への取り組み

3月末において、1日平均利用者数は16.6名、稼働率は58.4%と目標に達しなかった。

7、8月には利用が増えていたが、入院や長期のショートステイ利用、施設入所等から利用が減った。新規の利用者獲得やすでに利用中の方の利用曜日増加などをねらい、毎月の「ほほえみ通信」を各居宅介護支援事業所へ配布した。今後は、地域活動への訪問やPRも行っていきたい。また、現在利用中の方や家族に対して満足していただけるサービス・対応を心がけ、地域や知り合いへの口コミも狙った。カラー印刷の「ほほえみ通信」は好評であった。

重点目標②『地域とのつながりを深め、社会福祉事業者として地域へ貢献し、事業継続にもつなげる』への取り組み

感染予防の観点から、外部からの訪問や講師の方の受け入れはしなかった。地区活動や作業などへの参加も実施できず、地域とのつながりという面も不十分であった。今後は様々な社会活動が再開していくと思われるので、事業所としても積極的に参加してつながりを深め、地域福祉へ貢献していきたい。

重点目標③『利用者には安心して気持ちよく過ごしていただける、職員にとっては安全で効率的なサービスが提供できる環境を整える』への取り組み

4月より提供時間を変更した。提供時間は15分短くなったが効率的に業務を行う事で日常生活上での支援、機能訓練やレクリエーション等の質を下げずに提供できている。家族や担当ケアマネジャーからの不定期利用の依頼は可能な限り受け入れ、送迎時間の変更などにも柔軟に対応し、家族のニーズに応えた。また、利用日記の活用や送迎時の会話を通して、利用者の状態把握や情報交換ができた。

2. サービス提供について

介護サービス、各種活動や機能訓練、生活相談、サービス計画書の作成など、どれもほぼ計画通りに実施できた。季節行事やカレンダー作りなどは準備の段階から利用者を巻き込み、達成感を感じながら楽しい時間を過ごしていただいた。前年度から継続しているポイント制への取り組みは浸透し、利用者が自らすすんで脳トレプリントや塗り絵、手作業を行うことで充実した余暇時間を過ごしていただけている。

3. 職員研修、会議

内部での研修や会議はほぼ計画通り実施できた。外部の会議や研修には、主にオンラインの利用で参加できた。

その他

- ・職員配置について、計画よりも看護職1名少なく、特養との連携体制で対応した。介護職員も計画より1名少なく、また体調不良による1名の長期休みがあったが、山崎デイサービスセンターとの連携で配置調整をして対応した。
- ・感染症予防、コロナ感染対策についても、状況に合わせて対応ができた。年間を通して、利用者にコロナ感染者が出なかったことは幸運でもあったが、予防対策の成果としても評価したい。
- ・事業継続計画について、早急な作成が必要ではあったが、完成させることができなかった。管理者が、作成に関しての研修資料や県からの手引き等を参照して準備は進めているが、事業所としての具体的な計画案ができていない。

おおすか苑居宅介護支援事業所

1. 目標達成のための具体的な取り組み等

- ・事業所内での事例検討会等で支援について毎週意見交換を行った。その中で、月1回は包括支援センター職員にも参加してもらい、情報共有し客観的意見や助言を得た。
- ・業務時間内に仕事を終えることを目指して、業務の効率化について話し合いを行った。記録の簡素化などをすすめて、事業所内で実践した。
- ・長期で担当している利用者の状態が変わり、自宅での生活が困難になるケースが多く見られ、早期の対応に努めたが、入院や入所を防ぐことは難しかった。末期ガン患者など、支援開始時から状態が不安定な新規利用者も増えている。
- ・新規利用者へのサービス調整では、法人内サービス事業所の利用を積極的に検討した。
- ・旧大須賀町以外の地域へのアピールを継続し、大東地域包括支援センターから3件の新規利用者の紹介を受けた。掛川市中部地域包括支援センターへも紹介のお願いをした。
- ・地域の「見守りネットワーク会議」等への参加を通し、地域とのつながり構築や関係機関との連携を図った。
- ・新規の支援依頼があれば、早急に家族等と連絡を取り訪問をすることを心掛けた。経済的困窮や家族の精神疾患等の問題を抱えているなどで当事者の計画作成に苦慮するケースも増えている。事業所の職員間で連携し、課題の解決に努めた。

2. 居宅介護支援の利用状況

ケアプラン作成件数は延べ1,819件。昨年度と比較して93件の減である。入院後自宅に戻ることが困難なケース、末期ガン等状態が不安定な利用者への支援など、利用者の入れ替わりが多いことも計画作成件数増につながらなかった原因と考えられる。

3. 予防介護支援の利用状況

ケアプラン作成件数は延べ148件。昨年度と比較して78件の減であった。

4. 居宅介護支援異動状況

新規作成件数は53件でそのうち77%が地域包括支援センターからの紹介であった。支援終了件数は61件、理由として多いのが入所入院で、全体の75%を占めた。

5. 介護認定調査

掛川市との受託契約は継続しているが、新型コロナウイルス感染症予防のため、令和2年12月より調査の受入を中止している。

6. 研修、会議

内部での研修や会議は計画通り実施できた。外部の会議や研修には、主にオンラインの利用で参加できた。

掛川市南部大須賀地域包括支援センター

1	担当圏域	掛 川 市 人 口 115,979 人（前回比－723 人） 大須賀地区 人 口 10,464 人、高齢者人口 3,643 人、高齢化率 34.8% （前年比 -115 人 +29 人 +0.64%） ※R4.4 月現在（前回 R3.4 月末）
2	職員体制	主任介護支援専門員 1 名・看護師 1 名・社会福祉士 2 名（1 名は兼務）
3	取り組んだ 事業内容	【1】 総合相談支援業務 ① 実態把握 100 件 ② 総合相談受付、対応数 ⇒1,907 件（昨年比 +61 件） （来所 577 件、電話 983 件、訪問 347 件） 【2】 権利擁護業務 経済的困窮や、高齢ひとり暮らしで身寄りのない方など、権利擁護に関わる事例が増えている。病院退院時の支援や転院の手続き、生活保護受給などについて関係各所と連携して対応した。 【3】 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 相談援助やケアマネジメントのなかで、市や病院、事業所などの他機関と連携して、住み慣れた地域での安全な生活のため包括的な支援に努めた。 【4】 介護予防支援事業 請求件数 293 件（直営 57 件、委託 236 件） 介護予防ケアマネジメント業務 請求件数 289 件（直営 216 件、委託 73 件） 【5】 認知症施策推進業務 今年度より認知症関連事業の一部が掛川市社会福祉協議会に委託され、包括と連携しての活動が増えた。一般市民への啓蒙事業も進んできている。包括で依頼を受けたサポーター養成講座は 1 回、大淵地区福祉委員会からの依頼で実施した。 【6】 生活支援体制整備事業に関する取り組み ここ数年の課題であった、大須賀地域での通いの場づくりの計画を実施に移した。大須賀ふくしあ所属団体に連携し、役割分担をしながら検討を重ね、9/13 より毎週火曜午後に『おおすか健康広場いつもんとこ』を開催中。毎回 30 名程度の参加者があり、地域ボランティアがサポーターとして活躍している。今後もボランティアと協働していくことで、地域の担い手づくりの場としても活用していく予定である。 しかし未だコロナ禍の影響があり、地域での会議や活動の開催は少ない。そこへ参加することからの地域との関りが十分に持てなかった。 【7】 研修、専門知識の研鑽 オンラインの活用により、開催される会議や研修の数はコロナ禍前に戻ってきた。専門職としてのスキルアップや業務のための情報収集に活用できた。

山崎デイサービスセンター

1. 利用状況（重点目標への取り組み、評価）

重点目標①「1日平均利用者数 17 人以上、制限ある環境・設備条件の中で新規利用者の獲得を図る」への取り組み

9月末時点では1日平均利用者数は12.7名であった。その後平均15名まで回復したが、長期療養や入院により利用終了になる利用者が多く、3月末時点では1日平均利用者数11.8名と目標人数に届かなかった。（年間、終了者26名、新規利用者18名）包括支援センター・居宅介護支援事業所との情報共有や連携で状況把握、ほほえみとの連携によって地域へのPRの仕方を検討していくこと、などが必要と考えてはいたが実施できなかった。

土曜日の営業については、実施していくには職員を増やすことが必要でコスト増となる。それに見合う利用者増が見込めないので、検討していない。

重点目標②『地域とのつながりを深め、社会福祉事業者として地域へ貢献し、事業継続にもつなげる』への取り組み

感染予防の観点から、外部からの訪問や講師の方の受け入れはしなかった。地区活動や作業などへの参加も実施できず、地域とのつながりという面も不十分であった。今後は様々な社会活動が再開していくと思われるので、事業所としても積極的に参加してつながりを深め、地域福祉へ貢献していきたい。

2. サービス提供について

介護サービス、各種活動や、生活相談など、どれもほぼ計画通りに実施できた。

特に機能訓練のグループ体操では、日常生活に必要な機能維持を意識した運動を、ゆっくり声掛けしながら行うことができた。午前中の運動は習慣化しており、自主的に行っていた。職員からの声掛けで、ほとんどの利用者が「1日3種目以上の運動」を目標にし、実施できた。気候が良い時季には屋外散歩なども行えて喜んでいただいた。

入浴サービスでは、体調変化に合わせてプランを変更し、入浴可能な状態の日に入ってもらくなど、柔軟な対応をして満足度UPにつながった。

計画作成は、遅れてしまうことが多かった。利用者への内容説明は各担当職員が行い、情報収集の機会になった。利用日記や送迎時の申し送りや家庭との連携もとれた。

3. 職員研修、会議

内部での研修や会議は計画通り実施できた。外部の会議や研修には、主にオンラインの利用で参加できた。

その他

- ・職員配置について、1月からは計画よりも介護職員が1名少ない状況であったが、必要に応じてデイサービスほほえみとの連携で配置調整をして対応した。
- ・感染症に関して、本人や家族がコロナウィルスに感染し、療養を必要とする利用者が複数人あった。感染元は不明であり、クラスターには該当しなかったが、業者と共にセンター内の消毒作業を行った。年度半ばには利用者の疥癬感染もあった。体調変化の見極めの難しさや、家族への受診のお願いなど、在宅サービス故の課題を感じた。
- ・事業継続計画について、早急な作成が必要ではあったが、完成させることができなかった。管理者が、作成に関しての研修資料や県からの手引き等を参照して準備を進めているが、事業所としての具体的な計画案ができていない。
- ・単独の事業所であるため保守整備やメンテナンスが必要である。築10年を超えていることもあり、今年度は設備に不具合が出るところが目立ち予算の補正が必要だった。

令和4年度 事業報告（概要版）
小規模多機能型居宅よりみち

1. 利用状況 定員：登録定員 25 名（通い；15 名／日 泊り；6 名／日）
 - ・令和4年の月平均登録者数は、15.9 名で昨年度と比較して 0.1 名減少。定員に対する登録率は平均で 63.0％であった。サービス利用開始者数が 7 名、サービス終了利用者数が 13 名だった。
2. 事業所の目標
 - ①事業所全体の目標に対する取り組み
 - ・ミーティングや記録に残すことで職員間の情報共有はできた。
 - ・地域包括支援センター等への PR は、職員の意識不足でできなかった。
 - ・下半期、入所や入院で利用者の登録人数が減少したことで、目標数値は達成できなかった。
 - ②利用者支援に対する目標に対する取り組み
 - ・利用者に寄り添うことを意識し、利用者の発言したことや思いを記録した。
 - ・社会資源の把握は、職員の意識不足でできなかった。
3. サービス評価に基づく項目別計画
 - ・新規利用者の情報収集から 1 週間でのケアプランの見直しはできなかった。
 - ・利用者一人一人のニーズの拾い出しは、利用者の 7 割程度できていたが、職員間での情報共有や社会資源の把握はできなかった。
 - ・職員の意識不足から地域包括支援センター等への定期的な PR ができなかった。
 - ・利用者の記録物は、利用者の目に触れないようにしたり、ケアに対する気をつける内容を掲示し、出勤時に声に出すことで意識づけできた。
4. 具体的内容
 - ・ケアプラン、個別介護計画書の定期的な評価や見直しができた。また、「通い」で利用者が自発的に活動できるようフロアのレイアウトを変更した。
 - ・上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で地域交流ができなかったが、下半期には、地域のイベントや花見見学にでかけ、地域の方と交流することができた。
 - ・「通い」では、利用者の思いや希望に沿った活動や支援、家族や関係機関との連携ができた。
 - ・「訪問」「泊り」では、定期的な対応だけでなく、利用者の希望や状況に合わせて柔軟に対応できた。
 - ・介護相談では、随時家族等から相談ができる体制を確保した。また、地域住民からの相談に対しては、関係機関と連携し、個別地域ケア会議に繋げたケースもあった。
5. 運営推進会議
 - ・新型コロナウイルス感染防止対策から書面会議を 4 回、招集会議を 2 回実施した。
6. 職員研修、会議等
 - ・会議；5 月は実施できなかったが、それ以外の月では、計画通り実施できた。
 - ・内部研修；10 件の研修に、延べ 76 名参加した。
 - ・外部研修；9 件の研修に、延べ 29 名参加した。
 - ・防災；11 月（日中想定避難訓練）、3 月（消火訓練、夜間想定避難訓練）を実施した。
7. 事業継続計画（BCP）
 - ・原案作成など検討はしているが、作成できなかった。

令和4年度 事業報告（概要版）

グループホーム野楽里

1. 利用状況 定員：18名（9名×2ユニット）

・令和4年度の一日平均利用者数は、17.7名で昨年度と比較して0.7増加。定員に対する稼働率は、98.5%であった。新規入居者数は、4名、退居者数は、3名であった。

2. 重点目標

①事業所目標に対する取り組み

- ・PR活動は、職員の意識不足でできなかった。入居に対する問い合わせはあったが、申込みに繋がったのは2件だった。
- ・入居者の入院や退居者による空床が少なく、目標であった定員に対する稼働率97%以上を達成できた。

②処遇目標に対する取り組み

- ・生活支援については、上半期は感染症（疥癬）の蔓延で家事活動を中止したが、感染症の終息後は、家事活動への参加や一人一人に合わせた活動への参加ができた。
- ・アクティビティ活動については、新型コロナウイルス感染対策により、地域交流はできなかったが、施設内においてレクや脳トレなどの活動ができた。
- ・より良いサービスの提供については、定期的なケアプランの見直しはできたが、職員間のコミュニケーション不足や職員の長期休暇や入れ替わりもあり、ケアを良くするまで踏み込んだ意見交換ができなかった。

3. 会議・研修

- ・会議；ほぼ計画通り実施できた。
- ・内部研修；5件の研修に、延べ49名参加した。
- ・外部研修；3件の研修に、延べ13名参加した。

4. 運営推進会議

- ・新型コロナウイルス感染防止対策から書面会議を4回、招集会議を2回実施した。

5. 自己評価・外部評価

- ・今年度は、緩和措置が承認され、外部評価は実施しなかった。

6. 防災訓練計画

- ・11月（日中想定 of 避難訓練）、3月（消火訓練、夜間想定 of 避難訓練）を実施した。

7. 事業継続計画（BCP）

- ・原案作成など検討はしているが、作成できなかった。

令和4年度 事業報告（概要版）

【よこすか めく森こども園】

1、保育構想

教育・保育方針

◎温かな雰囲気の中で、子どもが安心して過ごすことができるようにする。

◎豊かな環境の中で、様々な体験を通し学びを支える。

重点目標 『好きなものを見つけよう』

具体策 ・好きな人を見つけよう ・好きな遊びを見つけよう

2、業務内容

1) 今年度の目標

・こども園として2年目をむかえ、法人理念・児童福祉事業部の運営方針、教育保育目標及び方針、また本園の重点目標に沿いながら、幼保連携型認定こども園の機能を充実させる。

2) 取り組み・評価・課題

・養護と教育の充実を図るため、今年度職員体制の見直しをしたことで、様々な事がスムーズになってきたが、時間を工夫して行っていくことがなかなかできなかった。
・危機管理の面で、意識が低く、様々なマニュアルの見直しも十分でないことは、次年度に向け、大きな課題である。
・全体を通して様々なことが整っていなかったため、次年度に向けての重要な課題である。

3) クラス編成

(令和5年3月31日現在)

歳児	クラス名	男児	女児	計	保育教諭数
0歳児	ひよこ	5	4	9	3
1歳児	うさぎ	11	11	22	4
2歳児	りす	14	11	25	4
3歳児	ぱんだ	7	8	15	1
	こあら	7	9	16	2
4歳児	きりん	9	12	21	1
	くま	9	11	20	1
5歳児	らいおん	8	9	17	1
	ぞう	7	10	17	1
合 計		77	85	162	18

4) 交流

上半期はコロナウイルス感染防止のため交流を控えたが、下半期は、小・中・高校生との交流を持つことができた。

5) 火災・地震・津波・水害・不審者対応訓練

年間目標「災害の発生に備え、子どもが自分で安全に行動できる力を養う」とし、毎月1回以上の訓練を実施。

6) 内部研修

- ・全職員参加のリモート研修
- ・0歳児クラスの公開保育とグループワーク
- ・新卒職員の公開保育を通しての話し合い

おおぶち そよ風こども園

1、保育構想

今年度4月より新たに認定こども園となり、リニューアルした施設で園児と保護者を迎える中、職員の共通理解を図りながら、保護者とより良い関係づくりが出来るように努めた。特に、幼稚園で実施してきた事業活動を引き継ぐことで地域との関わりも広がった。また、コロナ禍であったが、感染対策をしながら、安心・安全な教育・保育事業を進めてきた。

2、業務内容

1) 今年度の目標

- ・「げんきなからだ・かんがえるちから・やさしいところ」を年齢に応じた教育・保育を展開した。
- ・重点目標「よくたべ よくねて よくあそぶ」を掲げ、乳幼児期の基礎基本である食事・睡眠・遊びを重視し、保護者との連携を図っていく。

2) 取り組み評価・課題

- ・掲示物やICTを活用して、保護者に園での様子を配信することで園への信頼・理解に繋がっているので継続して行っていく。また、お便りなどICTを活用してペーパーレス化を図っていく。
- ・認定こども園として一年、コロナ禍で実施出来なかった行事や交流を少しずつ再開していく。
- ・職員の質の向上の為に、リモート研修や外部研修（キャリアアップ）への参加を増やしていく。

3) クラス編成

令和5年3月31日 現在

年齢	クラス	男	女	計	職員	年齢	クラス	男	女	計	職員
0歳児	みかん	6	3	9	保育教諭 3人	3歳児	めろん	8	7	15	保育教諭 1人
1歳児	もも	4	8	12	保育教諭 2人	4歳児	ばなな	9	14	23	保育教諭 2人
2歳児	いちご	7	5	12	保育教諭 2人	5歳児	ぶどう	11	12	23	保育教諭 1人
						合計		45	49	94	保育教諭 11人

4) 交流会（ふれあい農園）3・4・5歳児

（大城農地用地開拓）5歳児

- | | | | |
|--------|----------|-------|-----|
| 6月7日 | じゃが芋掘り | 5月24日 | 田植え |
| 6月27日 | さつま芋つるさし | 9月14日 | 稲刈り |
| 10月25日 | さつま芋掘り | | |
| 2月20日 | じゃが芋植え付け | | |

5) 火災・地震・消火訓練及び不審者対応訓練実施報告

①園児の安全確保

②職員の危機管理意識（責任・自覚を持ち適切な判断のもと迅速な行動をとる）

6) 内部研修

- （4月～5月） ・ 本園の理念・方針を共通理解する。目指す子どもの姿と園目標についての話し合い。
- （5月～6月） ・ 令和4年度 教育・保育についての話し合い。
- （6月～9月） ・ 保健衛生・健康安全・危機管理についての話し合いと実施訓練。
- （10月～1月） ・ 保育の標準的な実施方法についての話し合い。
- （2月～3月） ・ 園評価まとめ ・ 次年度についての話し合い。

3、一時預かり事業

実施状況 ・ 私的契約により利用延数：4時間以下（11名）4時間以上（36名）合計 47名

4、子育て支援センター事業

3月現在で利用延数 1933名。サークルを通して、同じ学年の子どもを持つ保護者同士が情報交換できる機会を設けた。引き続き利用者一人ひとりに寄り添い、丁寧な対応をしていく。